

駒場友の会

会報第27号

「東大駒場友の会」について

会長 浅島 誠

このたび、小林寛道前会長の後任として会長に選出されました、浅島誠です。

「駒場友の会」は今から十二年前に駒場キャンパスで育まれたリベラル・アーツの精神を愛し、かつて駒場の地に学び、働き、現に集う者の親睦の場を提供するとともに、東京大学教養学部、大学院総合文化研究科、大学院数理科学研究科における教育研究活動の発展、及び文化・芸術・スポーツ・健康を含む福利厚生の上昇に寄与し、駒場の地にゆかりの深い団体との交流、駒場の歴史や文化の保全、継承、発展をはかり、大学が広く地域社会の発展に寄与できるように支援することを目的につくられたものです。



この中には教養学部長が、直接に父母等と話し合う場や、駒場の施設見学等も含まれていますが、また駒場の学生達

や教職員が主宰するオルガン演奏会や様々な学生のサークル、図書館等の充実などで、東京大学に相応しい環境作りを行っています。

このような「駒場友の会」の活動に参加し、協力して下さる方々が年々増え、現在では四、〇〇〇名余りの多くの会員を擁するところまで来ています。

このような状況の許、小川教養学部長の指導もあり、今までの任意団体から、一般社団法人への方向性も打ち出すと共に、村松先生を中心とした事務局の体制の整備も進めています。この

「駒場友の会」の立ち上げ期からご尽力いただいた山本 泰先生がご停年で退職されたので、新体制を整える必要もありました。他に、引き続き旧第一

高等学校(旧一高)や東京高等学校の卒業生の方々もこの組織の仲間として、継続しています。

そして名称も従来の「駒場友の会」から「東大駒場友の会」に変更し、更なる駒場における教育・研究環境の充実につとめていきたいと思っていますので、理事会や事務局の先生方をはじめ、卒業生、御父母等の皆様方、教職員、学生の更なる御理解と御協力をお願いします。

(本学名誉教授 生物学)

乙〇一六年度 学部長との懇談会

本年も駒場友の会のメイン行事、教

養学部長と教養学部新入生の保護者や家族との懇談会が、四月十六日(土)駒場キャンパスにて開催されました(駒場友の会主催・教養学部共催)。

今回の新たな試みは、例年の五月ではなく、首都圏外の出身学生の保護者のみなさんにも出席しやすいよう入学式直後の週末に日程を設定したことです。あわせてより多くの方の出席を可能とするべく、収容人数が大きく、駒場の歴史を象徴する建物でもある「九〇〇番教室」をメイン会場としました。

ヘルマン・ゴチエフスキー先生のオルガン奏楽と、駒場友の会会長・小林寛道本学名誉教授の開会の挨拶に始まり、続いて、教養学部長・小川桂一郎教授の講演がありました。

リベラルアーツの教育とはそもそもどのようなものであるべきか、先端的研究者でもある教員が集まる教養学部にお



いて、それぞれの授業担当教員が、大学に入ったばかりの若い学生たちに専門研究の成果をどのように伝えようとしているか。近年の「役に立つ」「役に立たない」学問という区分けを超える一見役に立たないように見える研究の孕んだ大きな可能性や先端性こそが、駒場の教養教育の重要性であり魅力であると、具体的な例をあげながら話され、三四〇余人の参加者の新入生の保護者・ご家族からはときに笑いがあがり、なかなか雰囲気の中熱心に耳を傾けておられました。

九〇〇番教室でのプログラムの後は、キャンパスツアーが行われました。例年に比べ準備期間が短く事務局として実は心配もありましたが、幸い多くの若手教員を含む二〇人以上の現任教員の協力を得て、参加者のみなさんがグループに分かれ、春らしい天候の下、九〇〇番教室から出発しました。

一号館の伝統を感じさせる正面玄関から階段を上っていくと、二階に学生たちが将来のことを思いつつ「進学選択」について相談に訪れる進学相談所があります。豊富なデータをもとにしたアドヴァイスを受けることができま

すが、保護者からの相談も受け付けているそうです。もう一階さらに上ると、三階には明るいサロン風の学生相談所があります。気軽にさまざまな学生生活の疑問や問題について相談できることを肌で感じて取っていただけたのではないのでしょうか。またこの機会に、三階テラスに出て、駒場キャンパス正門

前の広場や、一号館の中庭などを上からの視点で見てくださいました。また、展覧会開催中の駒場博物館や図書館という、駒場の教育と研究の現場を、教職員案内で実際に訪れていただきました。さらに、一号館をはじめとする教室棟、銀杏並木、それぞれの教員の研究棟・研究室などを見て回りました。キャンパス見学の後は、昼食パーティ。どのような環境で、学生生活が支援されているか、教職員の顔が見える形でお伝えし、食事を共にしながら、今年度も和やかに教員と新入生の保護者・ご家族との懇談の会が幕を閉じました。(事務局長 本学教授)

総会

五月二二日(土)、駒場友の会総会が駒場キャンパスの駒場コミュニケーションプラザ内で開催されました。以下の議案が、小林寛道会長の議事進行により審議され、承認されました。

①二〇一五年度事業報告

I 懇談会・講演会・演奏会などの開催(共催・協賛などは一部の行事のみを記載)

- 一 新入生歓迎特別講演会(四月十四日)
- 二 新入生父母と教養学部長との懇談会(五月十六日)
- 三 音楽演奏会の共催と協賛
- 四 ロコモ体操教室の定期開催
- 五 ユータスクン学事カレンダーの製作・販売

II 寄付事業の推進

「学生のための寄付」を実施し、合計六、六八六、四〇〇円のご協力をいただき、駒場図書館、三鷹国際学生宿舎、また駒場祭、学生団体など学生の活動への補助(一、五五三、七八四円)、駒場博物館の特別展等への支援等の寄附が行われました(二七四、一四七円)。

III 広報活動

一 会報第二五号(二〇一五年九月十五日)、第二六号(二〇一六年三月十日)

二 ホームページ

<https://tomonokai.u-tkyo.ac.jp>

IV 構成員数

終身会員一二七名、通常会員四九二名、会友三、六四一名(合計四、二六〇名)

一 高同窓会会員二〇二名、東高同窓会会員八九名

V 総会の開催など

一 理事会・第十二回総会の開催(五月二三日)

二 「事務局運営会議」(年間四回)

三 一高同窓会担当専門委員会(四月三〇日)

四 事務局運営体制の交代

山本泰教授が三月末東京大学退職に先立ち、三月十五日(火)付で駒場友の会事務局長を退任。後任は村松真理子教授。

②二〇一五年度決算報告「HP参照」

③二〇一六年度事業計画

I 懇談会・講演会・演奏会などの開催

駒場図書館寄贈	1,345,926円
北京大学交流プログラム補助	553,352円
駒場祭協賛金	500,000円
三鷹国際学生宿舎への寄付と院生会への補助	950,648円
HCAP 協賛金	300,000円
駒場博物館	274,147円

収入の部

	2015年度予算	2015年度実績	2016年度予算
1 会費収入	9,900,000	9,514,000	6,800,000
11 通常会員会費	2,000,000	1,816,000	1,800,000
12 会友会費	7,200,000	7,350,000	4,500,000
13 終身会費	700,000	348,000	500,000
2 寄付収入	5,150,000	6,686,400	3,000,000
21 学生のための寄付	4,800,000	6,686,000	3,000,000
22 その他	350,000	400	
3 事業収入	642,000	985,178	1,600,000
31 2016ユータスクンカレンダー	217,000	402,138	600,000
32 ご父母と教養学部長との懇談会	25,000	25,000	1,000,000
33 2017ユータスクンカレンダー	400,000	558,040	0
4 雑収入	2,200	2,970	2,500
41 預金利息	1,200	1,470	1,500
42 その他	1,000	1,500	1,000
小計	15,694,200	17,188,548	11,402,500
前年度繰越金	9,547,910	9,547,910	11,298,682
合計	25,242,110	26,736,458	22,701,182

支出の部

	2015年度予算	2015年度実績	2016年度予算
1 印刷費	1,172,000	1,786,229	1,060,000
11 会報・案内等の印刷費	772,000	1,060,603	800,000
12 封筒・便箋等の印刷費	400,000	725,626	260,000
2 通信費	2,600,000	2,066,592	1,650,000
21 郵送料	2,400,000	1,936,167	1,500,000
22 電話・インターネット使用料	200,000	130,425	150,000
3 事務経費	990,000	1,477,061	950,000
31 事務用品費	400,000	755,743	400,000
32 ゼロックス使用料	320,000	417,705	450,000
33 会費等振込料金負担	270,000	303,613	100,000
4 人件費	1,628,750	1,361,705	2,600,000
41 事務局スタッフ	1,128,750	1,138,005	2,500,000
42 臨時	500,000	223,700	100,000
5 運営費	1,794,002	1,976,691	2,080,000
51 事務室借料	304,002	396,830	300,000
52 光熱水料	130,000	116,407	130,000
53 会員証作成費	880,000	625,194	100,000
54 入会勧誘活動費	150,000	334,512	0
55 庶務費	330,000	390,532	300,000
56 HP、システム製作	0	113,216	1,000,000
57 決済ステーション諸手数料			250,000
6 事業費	3,500,000	2,845,425	1,500,000
7 寄付	4,000,000	3,924,073	3,000,000
71 学部等への寄付	4,000,000	3,924,073	3,000,000
8 予備費	9,448		
小計	15,694,200	15,437,776	12,840,000
次年度繰越金	9,547,910	11,298,682	9,861,182
合計	25,242,110	26,736,458	22,701,182

- 一 新入生父母と教養学部長との懇談会
- 二 学生選抜コンサートへの協賛
- 三 駒場友の会主催「味覚の@駒場」
- 四 ロコモ体操教室の定期開催について(四月から九月までの半年間の委託)
- 五 音楽活動の支援(オルガン委員会、ピアノ委員会などが開催する演奏会)
- 六 駒場博物館への支援
- 七 講演会の開催(昨年度までの新入生向け講演会に代わって、保護者向け・学生向け講演会を開催)
- II 寄付事業の推進
 - 駒場図書館への図書寄贈や、学生支援課からの希望をもとにした寄付を教養学部に行い、男女共同参画事業への支援や駒場キャンパス、三鷹国際学生宿舎等の勉学のための環境の向上に協力する。また、キャンパスの多様化・国際化、それを目標とする学生団体への補助等は、事務局運営会議にて審議

し決定する。

④二〇一六年度予算「表参照」

⑤役員交代と法人化の提案

二〇一六年度の役員および理事

会長 浅島誠・副会長 落合卓四郎

板東久美子・理事 岩田喜美枝 小川

桂一郎 風間勝昭 川合眞紀 木畑洋

一 小島憲道 小林寛道 河野俊丈

蓮實重彦 松本健・監事 大岸良恵

長谷川壽一

近年の入会者数の大幅な増加と当会
会員・会友の構成比や財政規模等の変
化にともない、新たなよりふさわしい
運営方式の整備が必要となつている。

駒場友の会を任意団体から一般社団法
人とすることを検討し、二〇一六年度
にしかるべき手続きを進めることとす
る。

⑤は、駒場友の会の今後に関わる重要
な方針に関わるもので、総会に先立っ
て行われた理事会での審議を経て、新
たな社団法人としての定款案とともに
提案され、この方向性が承認されまし
た。ここに改めてお知らせします。

「世界の大学ランキング」 を読む

山内久明

在職中から不義理を重ね退職後二〇
年を超える身には不相应なテーマで寄
稿することをご容赦いただきたい。『サ
・タイムズ』と言えば一七八五年創刊
の由緒ある新聞ながら、浮き沈みを経
て今や地位が下落した。新聞本体とは

別に、『タイムズ文芸付録』とともに
健在なのが『タイムズ高等教育付録』
で、その「世界の大学ランキング」の
始まりは二〇〇四年に遡る。

二〇一五―一六年度の調査対象は世
界七〇カ国、八〇〇大学にのぼる。計
六項目(総合、教育、国際、企業資金
収入、研究、引用)についての評価比
率、六つ(工学、医学、生命科学、自
然科学、社会科学、人文科学)の分野
別順位、そして総合順位が示される。

一位はカリフォルニア工科大学、二位
オクスフォード、三位スタンフォード、
四位ケンブリッジ、五位マサチューセ
ッツ工科大学、六位ハーヴァード・
・とつづく。上位の常連にはアメリカ
をはじめ英語圏の諸大学が目立つ中で、
順位の変動も見られる。前年度二三位

の東京大学は四三位に下がり、四二位
に北京大学、アジアの最高位は二六位
にシンガポール国立大学が位置する。

「調査方法」の説明によると、自己
申告資料を厳密に統計処理して査定が
行われる。ただ、規模の違う総合大学
と分野が特化された大学など、異なる
条件下での画一的基準の適用が妥当か
どうか、素人には不明である。異議申
し立てによる再審査や評価の修正の余
地もない。情報として社会的話題性は
あるが、拘束力を持つわけではない。

当事者はともかく、部外者はおのずと
醒めた目で見るとはなかるうか。
かつて筆者が多少関わりのあったケ
ンブリッジ大学(四位)と東大を比較
してみる。資料として示される学生総

数、学生対教員比率、留学生比率、学
生の男女比は、東大二六、一九九人、
五・七人に一人、一〇%、男女比は非
表示、ケンブリッジ一八、八一二入、
一一・八人に一人、三四%、男女比は
四六対五四。東大は学生対教員比率を
誇ることができ、前期課程全学生
を擁し三層構造を持つ駒場の場合は、
二〇人(以上)に一人かと想像する。
半世紀前、ケンブリッジの男女比は約
三対一、現在の比率は一九七〇年来二
〇年かけて行われた男子コレッジの共
学化の成果である。

総合、教育、国際、企業資金収入、
研究、引用の六要素の評価は、東大七
一・一、八一・四、三〇・三、五〇・八、
八三・〇、六〇・九、ケンブリッジ九
二・八、八八・二、九一・五、五五・〇、
九六・七、九七・〇、工学、医学、生
命科学、自然科学、社会科学、人文科
学の六分野別順位は東大三二位、四二
位、四五位、三四位、八三位、四五位、
ケンブリッジ四位、三位、二位、六位、
一位、六位。企業資金収入をカリフ
ォルニア工科大学(九七・八)と比べ
ると、東大、ケンブリッジともに相對
的に低い、大学の基本である教育・
研究の評価比率はともに安定している。
それ以外の要素に対する評価が変数と
なって順位を左右していると言える。

ケンブリッジ(及びお互いが双生児
のようなオクスフォード)において歴
史上の異なる時期に創設された三一
(二八)にのぼる大小の「コレッジ」と、
学部・学科を所管する「大学」とが並
存する二重構造は世界にも類がない。
「コレッジ」は教育研究上「大学」と
不可分な関係にあるが、国家予算に依
存する「大学」からは自立した独立採
算制の「自治体」である。多分野の学
生・教員がともに、「大学」の学部・
学科と同時に「コレッジ」に所属し、
起居を共にする学際的な知的共同体を
形成する。学部教育三年間を通じて学
生と教員一対一で行われる個人指導は
各コレッジが所管し、これが教育の核
であり、社会的・文化的活力の源とな
る。教育研究成果の着実な蓄積と、最
先端の課題に献身する研究者に場所が
与えられ、附置研究所も含め重層的組
織が有機的に連動して機能するケンブ
リッジ(オクスフォード)において、
評価序列は目標ではなく結果としてつ
いて来るものである。

Brexit が決まった翌日、ケンブリ
ッジ大学総長 (Professor Sir Leszek
Borysiewicz 免疫学・科学行政) は
離脱を遺憾とし、あらゆる措置を講じ
て EU からの留学生・研究者を守る固
い決意を表明した。世界の大学として
の揺るぎない使命感が読みとれる。
(本学名誉教授 イギリス文学)

再び駒場に

石川 亜実

昨年四月に教養学部配属されて
から一年五ヶ月が経ちました。
今から約六年前に前期課程(大学一、
二年生)を修了して以来、駒場キャン

パスを訪れることはほとんどありませんでしたが、教養学部への配属を機に、五年振りに再びこのキャンパスに通うこととなりました。

駒場キャンパスを離れていた五年間のうちに、在学時に工事中だった2IKONCEEの両棟が竣工するなどの変化はありましたが、キャンパス内のおくは当時の面影をそのまま残しているように感じます。生協の前でダンスの練習に励む学生や、学食のテーブルを囲んで勉強や雑談する学生の姿も、春の桜も秋の銀杏並木も、私の在学時代と同様の風景が繰り広げられています。キャンパスを歩いていると、ふと自分の学生時代の記憶が思い起こされます。

昨年、教務課前期課程係に配属が決まったときには、懐かしさとともに不安を感じたことを覚えています。教務関係の業務は初めてでしたし、窓口業務以外にどのような業務を行っているのかを具体的に知りませんでした。呑気に駒場キャンパスに通っていた学生の頃は、教務課の窓口どころかアドミニストレーション棟に足を踏み入れたことすら数えるほどしかありませんでした。

実際に身を置いてみると、教務課では実に驚くほど多岐に渡る業務を行っていることがわかりました。時間割の編成、学籍・履修・成績の管理、定期試験の運営：学修のインフラを整備するだけでなく、それ以外にも多くの業務が存在しています。

夏休みや春休みを除いて、教務課の仕事の多くは学事と共に進んでいきます。春には新入生を迎える準備をし、各セメスター・チームの始めには履修相談に来る学生が窓口の前に列を作ります。定期試験が近づけば手配を行い、試験が終了すれば成績を発表します。夏には進学選択、冬には大学入試の運営にも携わり、そしてまた春がやってきます。

学生時代には一年の中の数ある出来事の一つとして通り過ぎていった様々な学事ですが、いまでは一つ一つ、噛みしめるような思いで迎えています。そして同時に、自分が学生だったときには当たり前のように享受していた学生生活が、実は目に見えない様々な人の尽力によって成り立っていたことを実感しています。

勿論、窓口も重要な業務の一つです。学生と教員を繋ぐ役目を果たすことや、問題や悩みを抱えて来訪する学生をサポートすることも教務課の役割です。窓口で晴れやかな顔をして帰っていく学生を見るとホッとしますが、時には厳しい内容を伝えなければならぬこともあります。各々の学生には様々な人生が拓けており、その人生を歩む上で、進路など数多くの選択を重ねていかなければなりません。カウンター越しの学生を通して自分の学生時代を見ているような気持ちになることもしばしばです。その選択に少しでも関わる内容を伝えるときはやはり責任を感じます。

駒場を離れていた五年のうちにカリキュラムも大きく変わりました。学事暦の変更はもちろんです、英語の科目(FLOWやALESS/A)、初年次ゼミナール、TLPなど、在学時代には存在しなかった科目やプログラムもできました。新設のものだけでなく、シラバスを読むと、改めて面白そうに感じる科目や、学生時代には敬遠していた分野でも、今なら履修してみたいと思う科目がたくさん存在しています。

同じものでも、立場を変えて関わることで様々な魅力が発見したり、それまで気づかなかったことが新鮮に映ることがあります。私は前期課程に「学生」と「職員」という異なる立場で関わったことで、いま、その奥深さを実感しています。

加えて、教務課では先生とコミュニケーションを取る機会が頻繁にあります。学生時代に教えていただいた先生と再びお会いし、立場を変えてお話しできることは嬉しく、感慨深くもあります。(ですが同時に、やはり学生時代のことを思い出すのか、とても緊張してしまいます。)

日々の業務以外にも様々な発見があります。その一つが、キャンパスで行われているイベントです。ピアノ委員会が年二回ほど主催しているコミュニケーションセッションプラザでの演奏会や、駒場ファカルティハウスで行われた「味覚のアトリエ」のワークショップなど、学生時代には知る機会がなかった素晴らしいイベントに参加させていただきました。

この魅力溢れる駒場キャンパスで、これからまたどんな新しい発見があるか楽しみです。

(二〇〇八年文科三類入学、二〇二二年文学部行動文化化学科社会心理学専修課程卒業)

爽やかな風に包まれてゆったりとくつろぐことのできる

フランス料理 ルヴェ ソン ヴェール 駒場

駒場友の会の皆様がお食事の際に注文なされたコーヒーは、お支払いの際に会員証・会友証をご提示下さいますと無料になります。

営業時間 11:00 ~ 14:30、17:00 ~ 21:00

Tel: 03-5790-5931 / Fax: 03-5790-1902

駒場ファカルティハウス内

駒場友の会会報 第27号

2016年9月15日発行

駒場友の会
会長 浅島 誠

〒153-8902

目黒区駒場3-8-1 東京大学
駒場ファカルティハウス内

電話 03-3467-3536

FAX 03-3465-3334

メールアドレス、URLが変わりました!

メール

tomonokai@post.c.u-tokyo.ac.jp

ホームページ

https://tomonokai.c.u-tokyo.

ac.jp/

デザイン・印刷 株式会社双文社印刷

http://www.sobun-printing.co.jp